

診療最前線 MED 脊椎内視鏡下手術

当院における脊椎内視鏡手術の紹介

MEDとは

Micro Endoscopic Discectomy：内視鏡下椎間板摘出術

内視鏡を用いた腰椎椎間板ヘルニアの手術方法で、1995年にアメリカで開発されました。日本へは1998年9月に吉田宗人先生によって導入されました。当院でも、同年に日本で10番以内の早期に導入し、以降、現在まで手術を行っています。

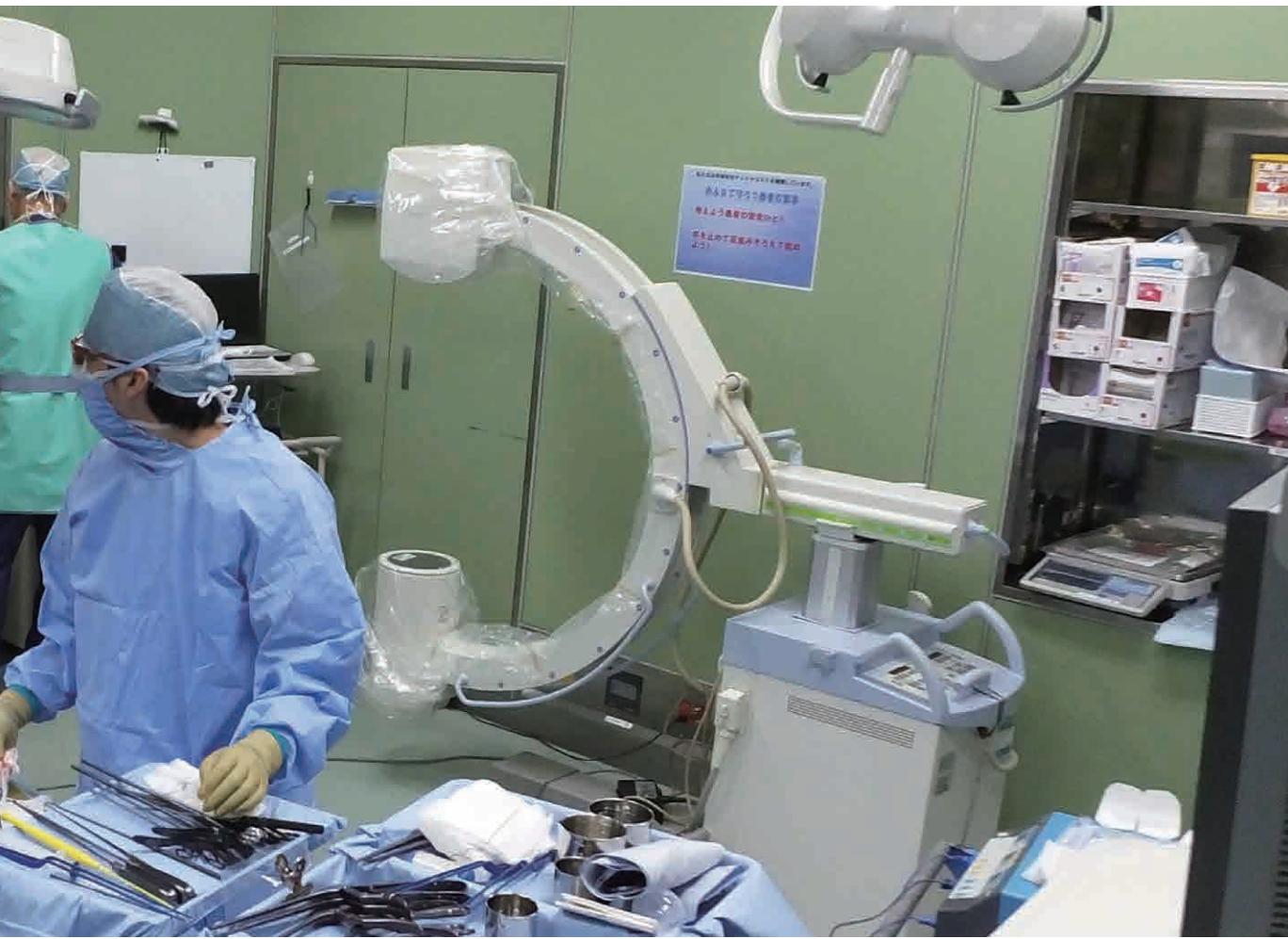
内視鏡下脊椎手術

内視鏡を用いた脊椎手術は、患者さんのお身体への負担が少ない低侵襲手術の一つで、傷口は18～20mm、入院期間は7泊程度と、早期の社会復帰を可能にします。



どんな疾患に対して行われているか

脊椎内視鏡手術の適応疾患は、手術手技や機器の発達により当初の腰椎椎間板ヘルニアから、腰部脊柱管狭窄症や腰椎すべり症などへと拡大してきています。（全ての疾患を内視鏡で手術できるわけではありません。当院では医師同士のカンファレンスにおいて適応を慎重に検討し判断しています。）



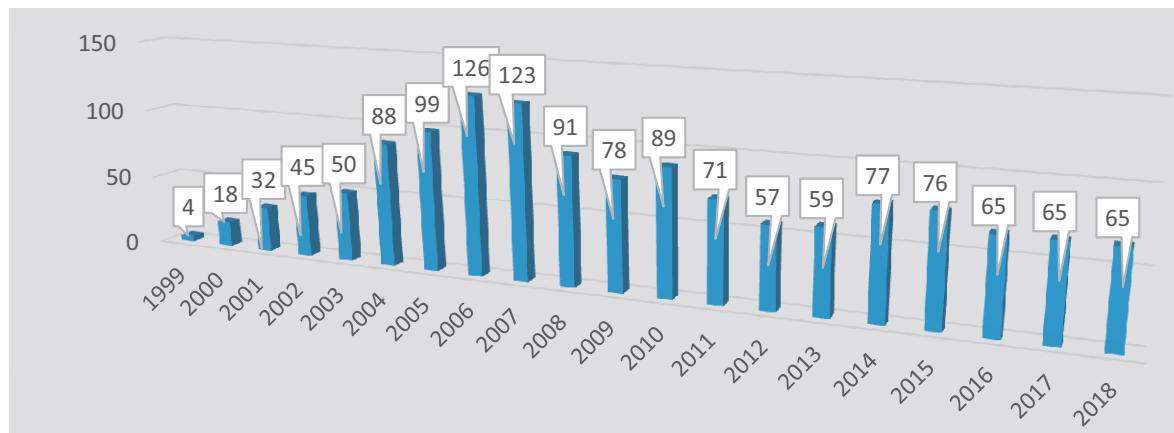
手術に必要な資格・認定

日本整形外科学会認定 脊椎内視鏡下手術・技術認定医

整形外科専門医試験に合格して「整形外科専門医」の資格を取得した上で、さらに「日整会認定脊椎脊髄病医」としての資格を取得した後、実際に脊椎脊髄疾患の診断、治療（手術を含む）を定められた件数以上経験し、実績を積んで「脊椎脊髄外科指導医」の資格を取得します。こうして初めて受験資格を得た後、実技試験を受けて「脊椎内視鏡下手術・技術認定医」の資格を取得します。この資格を継続するための要件も厳しく、手術時のビデオの提出などが義務付けられており、また、一定数以上の手術を継続的に行ってないと資格を更新できません。

日本整形外科学会のホームページで専門医を探すことができます。現在（2019年10月時点）、長野県には6名の「脊椎内視鏡下手術・技術認定医」が掲載されており、うち2名が当院で手術を行っています。

当院の脊椎内視鏡下手術件数データ



MEDのメリット

- ・手術痕が小さい（18～20mm）
- ・従来法のように腰部の筋肉を大きく切らずに済む。
- ・術後の痛みが軽く、回復が早い。
- ・手術部分の術後創部感染の危険性が低い。
- ・入院期間が短く（7泊程度）、日常生活や仕事への早期復帰ができる。



脊椎センター長兼整形外科科長
脊椎内視鏡下手術・技術認定医（2種）
由井 瞳樹 医師



2019年9月、脊椎内視鏡機器を更新しました。今回、内視鏡、カメラ、モニター等の周辺機器の更新に伴い、暑りに強く、非常に綺麗な手術画像（4K）が得られるようになり、また、機器の操作も簡便になりました。このため、今後、手術時間の短縮や、出血量の減少など、更なる低侵襲化によって、より患者さんのお身体に対する負担が減らせると考えています。

手術の流れ

- 全身麻酔 ⇒ 手術台にうつ伏せ ⇒ 皮膚切開（18～20mm）
⇒ 外筒挿入、内視鏡設置 ⇒ 内視鏡画像を見ながらヘルニア摘出
⇒ 閉創、手術終了

入院から退院までの流れ

- ・手術前日：入院
夕食まで摂取可能
水分は手術2時間前まで摂取可能（経口補水液）
- ・手術当日：術前
点滴などの準備をして手術室に移動します。
手術 全身麻酔をかけて手術を行います。
術後 麻酔が覚めてから病室へ戻ります。
飲食はできません。
- ・術後1日：朝から水分摂取、昼から食事摂取可能。
ベッドから起き上がれます。
- ・術後2日：リハビリを行います。病棟内を散歩できます。
- ・術後7日：退院
- ・術後1～2週：デスクワークが可能になります。
- ・術後1か月～：軽作業が可能になります。
- ・術後3か月～：スポーツ、重労働が可能になります。

